

# 第1回 元町周辺まちづくり研究会 次第

日時 令和5年5月9日(火) 9:30~10:30  
場所 県庁2号館 5階 小会議室

## 1 開会

## 2 状況説明及び意見交換

- (1) 県庁2号館及び議場棟の詳細な耐震診断(時刻歴応答解析)の結果及び今後の対応
- (2) 県庁周辺県有地の土地利用
- (3) JR元町駅西口周辺のバリアフリー化
- (4) 元町における南北の回遊性向上

## 3 閉会

# 元町周辺まちづくり研究会メンバー

## < 本体 >

機関名	職名	氏名	出欠
兵庫県	総務部長	小橋 浩一	出席
	総務部 元町プロジェクト室長	菅 雄二	出席
	まちづくり部長	柴田 和弘	出席
神戸市	企画調整局長	辻 英之	出席
	建設局長	小松 恵一	出席
	都市局 都心再整備本部長	中原 信	出席

## < ワーキンググループ（バリアフリー・回遊性） >

※敬称略

機関名	職名
兵庫県	総務部 元町プロジェクト室 元町再開発課長
	まちづくり部 都市政策課長
神戸市	建設局 道路計画課長
	都市局 都心再整備本部 都心三宮再整備担当部長
	都市局 都心再整備本部 都心交通担当課長
J R 西日本	都市局 都心再整備本部 都心整備担当課長
	近畿統括本部 経営企画部 担当部長
	近畿統括本部 経営企画部(協議) 課長
	近畿統括本部 兵庫支社 部長

# 県庁2号館及び議場棟の詳細な耐震診断(時刻歴応答解析)の結果及び今後の対応

作成年月日	令和5年3月29日
作成部局	総務部元町再開発課

県庁2号館及び議場棟の精緻な耐震性能を把握するため、詳細な耐震診断(時刻歴応答解析)を実施していましたが、その結果が判明したため、今後の対応と併せて、下記のとおりお知らせします。

## 1 時刻歴応答解析の結果

### (1) 2号館

長周期地震に対しては、倒壊に至るような大きな被害は生じないが、直下型地震では耐震性判断基準を満たしておらず、倒壊・崩壊に至る可能性があるものの、本建物は鉄骨鉄筋コンクリート造であり、鋼材が密に入っているため、倒壊しにくいと考えられる。

### (2) 議場棟

長周期地震に対しては、倒壊に至るような大きな被害は生じないが、直下型地震では耐震性判断基準を満たしておらず、建物に大きな被害が発生し、倒壊・崩壊に至る可能性がある。

区分	直下型地震 (阪神・淡路大震災)	長周期地震 (南海トラフ地震)
2号館	×	○
議場棟	×	○
(参考)1号館(H30実施済)	×	○

## 2 今後の対応

### (1) 1・2号館の取り扱い

令和7年度に1・2号館の移転を開始し、移転後は建物を撤去

- ① 職員の出勤率4割程度の配置計画を作成
- ② 既存の県施設を最大限活用（3号館、生田庁舎、公館等の活用を想定）

※ 議場棟については、議会と協議

### (2) 跡地の暫定利用

1・2号館の撤去後は、当面の利用として市民緑地を整備し、県民の憩いの場やイベント広場、災害対応の拠点として活用

### (3) 新庁舎整備の検討

庁舎に求められる機能や働き方改革等を踏まえ、新庁舎の整備について検討

### <スケジュール>

項目 \ 年度	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030
基本計画案(R3)でのスケジュール	基本計画		設計			建築工事			移転	解体	
今後の対応				モデルオフィス 試行	パソコン モバイル化	移転	解体				
						新庁舎整備の検討					

※基本構想(R1)では、R6に建築工事完了、R7に解体の予定であった。





# これまでの経過（JR元町駅西口周辺のバリアフリー化）（1/2）

区分	A案 最小限の改修によるバリアフリー化		B案 JR高架下2階部分を経由するバリアフリー動線を整備		C案 鉄道上空に新たな歩行者用跨線橋を新設	
整備概要	<p>既設歩道橋や階段を活用し、JR改札階と市道若菜神戸駅線を新設のEV及びESCで接続</p>		<p>高架下2階に商業施設等を新設するとともに、北側歩道橋及び階段を更新し、北側歩道橋、市道若菜神戸駅線、2階新設商業施設、既存改札口の各階をEV及びESCで接続</p>		<p>A案と同様のバリアフリー化に加え、JRを跨いで南北を結ぶ跨線橋を新設し、跨線橋と地上をEV及びESCで接続</p>	
整備内容	北側歩道橋：既存	ESC：1箇所1基 EV：2箇所2基	北側歩道橋：更新 2階商業床：新設（2階改札：新設）	ESC：1箇所3基 EV：1箇所1基	北側歩道橋：撤去 跨線橋：新設	ESC：2箇所6基 EV：4箇所4基
歩行者動線のバリアフリー化	○	6mの高低差をEVで解消	◎	6mの高低差をEVで解消 2階に改札口が新設されれば、3m程度の高低差となる	○	6mの高低差をEVで解消
歩行者の利便性向上	○	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上	◎	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上 2階に改札口が新設されれば駅からの移動距離が短縮 歩道橋の更新により、北側傾斜道路の勾配が一部緩和	○	ESC（昇り方向）の設置により利便性が向上 新設跨線橋による駅南北間の移動経路は分かりやすくなるが、高低差が大きいため移動時間は短縮されない
にぎわいの創出	△	商業施設への立ち寄り部分的	○	1階及び新設2階の商業施設が動線上にあり立ち寄りが見込める	△	商業施設への立ち寄り部分的 跨線橋利用者は商業施設への立ち寄りは無し

## ●今後の方向性

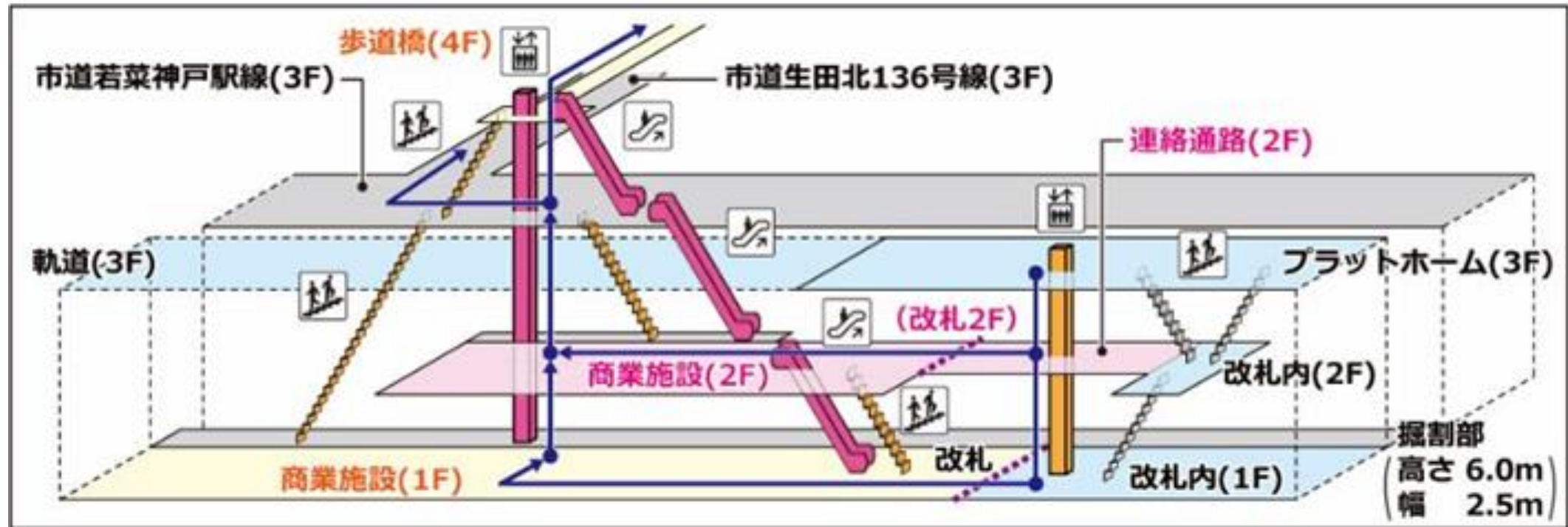
- ・北側への円滑な歩行者動線の確保に加えて、JR線の高架下空間の効果的な活用等により、「山手グリーンフロント」の玄関口にふさわしい整備が可能となる「B案」を基本として計画を進める

※実現には、現地の詳細な測量や地質調査、既存構造物の調査等をもとに計画を進めていく必要があり、また、事業主体や費用負担、市道若菜神戸駅線の歩道拡幅の検討など整理すべき点も多くあることから、引き続き、JR西日本や神戸市と連携して検討を進める

# これまでの経過（JR元町駅西口周辺のバリアフリー化）（2/2）

## B案

JR 高架下 2 階部分を經由するバリアフリー動線を整備



高架下 2 階に商業施設等を新設するとともに、北側歩道橋及び階段を更新し、北側歩道橋、市道若菜神戸駅線、2 階新設商業施設、既存改札口の各階を EV 及び ESC で接続



# これまでの経過（元町における南北の回遊性向上）

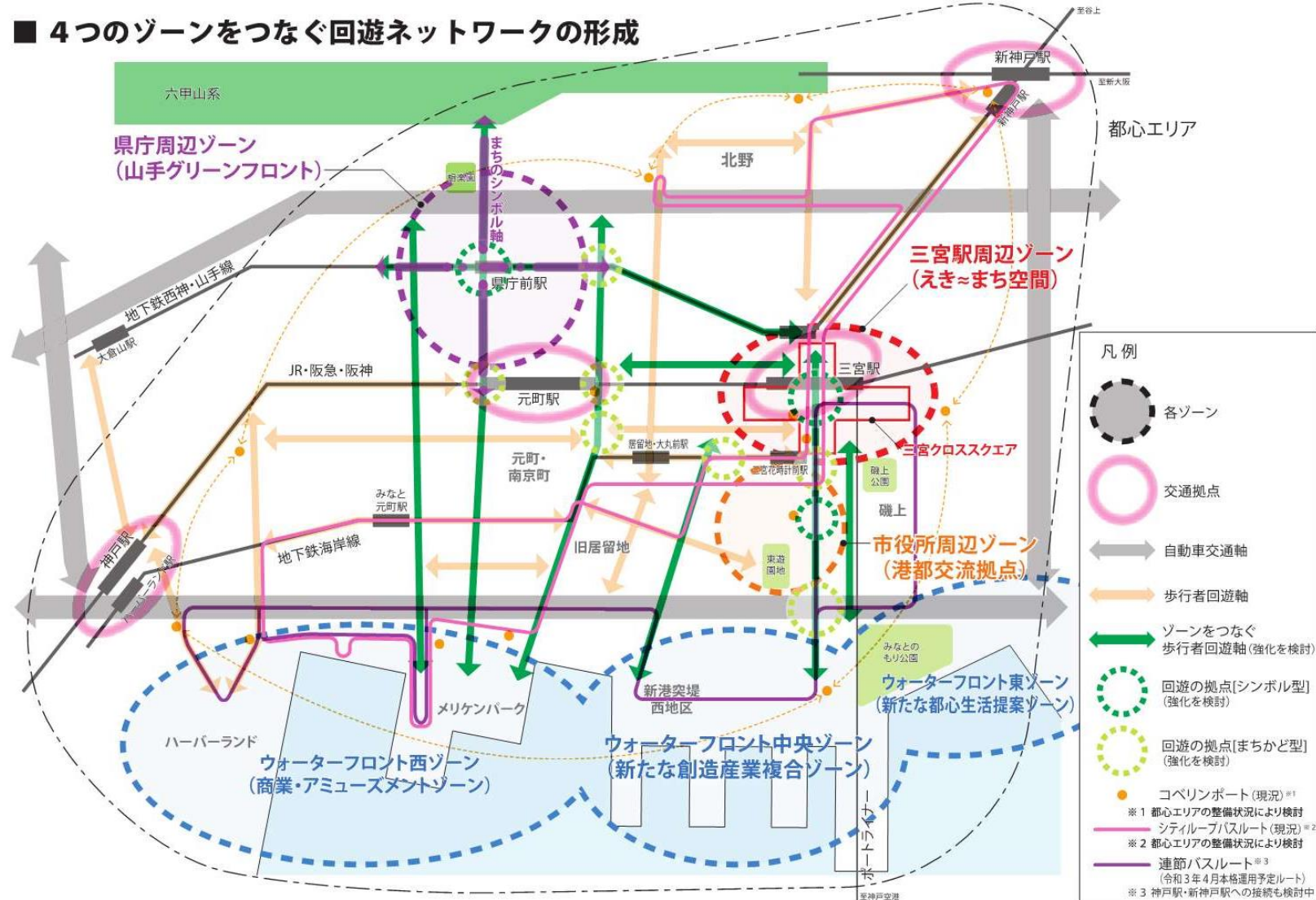
## ●ゾーン間の連携

各ゾーン間の回遊性を高めるには、歩道幅や美装化、街路樹や照明の整備など、「歩行者動線の強化」を図るとともに、パークレットやベンチ等のストリートファニチャーの設置や街角広場の整備など、回遊の拠点の整備や強化が重要です。

これらの整備にあたっては、道路や広場等の公共施設と周辺の民間施設の公共的な空間を官民連携によって一体的に整備することで、さらなる魅力向上につなげるとともに、エリアマネジメント等の取り組みを進めることで、憩いとにぎわいを創出し、次にそこを目指して行こうと思わせることが必要であると考えます。

また、広く都心エリア全体の回遊性を向上させるためには、既存の公共交通の拡充や自転車走行空間の整備、新たなモビリティの導入など多様な交通手段の確保を進めていく必要があります。

## ■ 4つのゾーンをつなぐ回遊ネットワークの形成



※都心エリアの再整備計画に関する検討会議とりまとめ(R3.2)から